

うまい話にご用心

マルチ商法

友人に「簡単に稼げるいい仕事がある」と誘われ、興味を持ったので説明会に参加した。

説明会では「人を紹介すれば収入が得られる。月に数百万円稼いでいる人もいる」と説明された。

参加するには約30万円の健康食品を購入することが必要だったので悩んだが、「消費者金融で借りても、すぐに返済できるだけの収入がある」と言われ、翌日に30万円借り入れ、すぐに契約した。その後、友人を勧誘したが誰も紹介できず、収入が得られないので解約したいが応じてくれない。

マルチ商法は販売組織に加入した人が次々に友人や知人を勧誘し、ピラミッド型に会員を増やしながら商品などを販売していくシステムです。友達や先輩、上司の誘いだと断りにくいという人の弱みにつけ込み、新規の会員を加入させ高額な商品を販売し続けることによって利益を上げるのが目的です。特に大学などを舞台に若年層の被害が多発しています。



○甘い誘いにご用心

勧誘時「誰でも簡単に稼げる」などと説明されますが、安易に収入を得られると考えてはいけません。

○人間関係が壊れます

自分の利益のために、友人や先輩・後輩などの信頼関係を利用することになるため、大切な人間関係まで壊れてしまいます。

○一人で悩まず相談を

契約しても、期間内であれば無条件で契約を解除できるクーリング・オフ制度や、期間を過ぎた場合であっても、中途解約できる可能性があります。できるだけ早く消費生活相談窓口にご相談ください。

▼問い合わせ 市民サービスグループ

1P (☎ 3491)

人が輝き まちがとぎめく

仲間たち

Group

若草俳句会

『若草俳句会』は、俳句を趣味とする方たちが、交流や研さんを目的として、昭和52年に発足しました。

現在、会員は50歳代から90歳代までの約50人。月8回、若草つどいセンターや鶯別公民館、優和園などで活動しています。

例会では、会員が自作を5句程度持ち寄り、その中で良い句を選んだり、批評したりしています。

「俳句は敷居が高いイメージがありますが、わたしたちは、おしやりしながら楽しく活動しています。普段の生活の中でふと浮かんだことを俳句にしたり、実際に自然に触れて作ったりと、日々の生活が楽しくなります」と話すのは代表の山形定子（本名貞子）さん。

取材した日の一番評価の高かつ

た俳句は『どんどの火 猛り祝詞のはじまりぬ』と1月にふさわしい句でした。

「毎月の例会のほか、毎年1月末には新年句会を行ったり、年2回吟行会として道内の名所を巡ったりして、会員の親ほくを深めています。一昨年の8月からは俳誌『青女わかさ』を月一回発行して、会の皆さんと作品作りに励んでいます。今年はこの30周年に当たるので、夏には合同句集も出す予定です」と山形さんは話してくれました。

発足当時から指導している木村凍郎（本名伊佐雄）さんは「俳句は奥が深く終わりがありません。一生のうち一句でも満足のいく句ができればいいですね」と笑顔で話してくれました。

入会を希望される方は、山形さん (☎ 8034) までどうぞ



日々の生活の中で感じたことを十七文字で表現しています

